

Title	使用済自動車の処理過程
Sub Title	
Author	荻野明仁(Ogino, Akihito) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1156号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1156

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

荻野 明仁

主査 河野 宏和

副査 小野桂之介

古川 公成

所属

河野 宏和 研究室

使用済自動車の処理過程

本論文は、使用が終了した自動車がどのような過程を経て廃棄されていくのかを調査・分析し、現状の処理プロセスにおける問題点を解決するための方策を検討することを目的としている。

論文の冒頭で、現在の生産・消費に関わる社会システムを概観した後、廃棄物処理の問題はこの社会システムに内在するものであることを述べる。次いで、文献調査とフィールドスタディに基づいて、処理過程の現状を把握する。その際、処理の機能が多岐にわたる廃自動車処理過程の描写を容易にするため、概要を簡単に見た上で、モノの流通、プロセスの諸機能、業界における主要参加者、金銭・情報の流通、という4つの視点から分析を行う。これらの作業を通じて、処理プロセスの全体像を把握し、現在処理過程において発生している問題点とそれらの因果関係を分析する。さらに、問題解決の手掛かりを得るため、他国の事例も調査する。

解決に向けての提言に当たっては、まず、廃自動車処理プロセスが抱える問題あるいはプロセスを取り巻く問題を解決する方策を階層化する。すなわち、社会システムの変革、処理プロセスの構造・システムの変革、処理プロセス内の各機能の改良、という3つの階層毎に解決策を検討する。その結果、製造者に製品の廃棄責任を負わせることにより、各処理機能の改良を促すことが、最も実効性が高い方策であるとの結論が導かれている。